

環境未来都市構想の概要

2011年(平成23年)12月22日、東松島市は政府の新成長戦略に位置付けられた「環境未来都市」に選定されました(全国で11団体)。

市では、新しいまちづくりの理念のもと、被災地の迅速な復旧とさらなる復興を実現し、すべての市民と支援者の心と力を結集し、震災復興のモデルたる『希望の地』を東松島に創造するため、『東松島市復興まちづくり計画』と連動した復興を牽引する取り組みとして、環境未来都市構想を提案しました。

環境未来都市を目指すことは、本市の復興まちづくり計画リーディングプロジェクトが具現化されることと同じ意味を持つことになり、その推進には国などが積極かつ集中的な支援を行います。

順次、具体的な事業計画を策定し、地域の資源を活かした新エネルギー産業の集積による「新事業の創造」と「自立分散型電源」、「市民協働」による防災力の強化と超高齢化社会を見据えた「安全な生活都市」を目指し、豊かに暮らせる東松島市を実現していきます。



■主な概要(内容要旨)

テーマ:「あの日を忘れず ともに未来へ 東松島一新」

①環境(低炭素・省エネルギー)

- 野蒜地域を先行モデル地区「NOBIRU・新成長都市」とし、「MATSUSHIMA自然エネルギーパーク構想」を実現して地域独立電源を創出
- 家庭・運輸部門を中心にした温室効果ガスの削減を実現

②超高齢化対応(地域の介護・福祉)

- 高齢者医療・介護・福祉費を抑制する安全で健康的な住宅を整備
- 地域住民相互の高齢者介護、見守り体制を構築
- 高齢者の就業機会を提供するとともに、外出を助ける交通基盤を整備

③防災(災害に強いまちづくり)

- 暴風・豪雨・豪雪・洪水・高潮・地震・津波・噴火などの自然災害から住民の安全を確保し、「世代をわたり長く住み続けられるまち」を創造
- 公共避難所における自立避難生活機能を向上
- 住民一人ひとりの防災意識の定着と継承を自衛隊などとともに連携

◀2013年(平成25年)8月に奥松島運動公園跡地に完成した『奥松島「絆」ソーラーパーク』は、「東松島市復興まちづくり計画」におけるリーディングプロジェクトおよび「環境未来都市構想」の計画事業として位置付けた「分散型地域エネルギー自立都市プロジェクト」の一つです。

